

# Goro Umezu

はなつゆの画家

## 「風景」 梅津五郎 絵画展

晩年の大作「新宿の夜の灯」「昼の月」「蔵王連作」「燃え立つ」などの代表作をはじめ、飛躍のきっかけになったフランス滞在期の作品、さらに未公開作品も展示。



上・《新宿の夜の灯》  
下・《萌える》

2015年1月31日[土]—3月1日[日]

開館時間 = 9:00 ~ 17:00

休館日 = 月曜日

観覧料 = 一般個人 200円

高校生以下 無料

同時に「梅津五郎芸術賞第1回全国絵画公募展」一般の部 最優秀賞作品 高田啓介「北国の冬」(牛舎とサイロ)を展示し、あわせて記念トロフィー、漆蒔絵立体『円環』(三田村有純作)を、台座に受賞者高田啓介氏のお名前を入れて展示します。



会場 = 白鷹町文化交流センター **AYu:M**  
主催・お問い合わせ = 白鷹町文化交流センター  
〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝 7331 番地  
TEL. 0238-85-9071

あゆーむ



## 梅津五郎・略歴 1920（大正9）－2003（平成15）

1920（大正9）年、山形県西置賜郡東根村（現在の白鷹町浅立）に生まれる。後に白鷹町畔藤に移住。1933（昭和8）年東根尋常高等小学校卒業。

1938（昭和13）年上京し、昼は絵の勉強、夜は姉の飲食店で手伝いをする生活を送る。1939（昭和14）年、帝展特選の洋画家である森田茂に師事し、次いで1941（昭和16）年、森田の師である熊岡美彦の絵画道場を紹介され、入門する。

その甲斐もあり1943（昭和18）年、第11回東光展に《机上静物》が初入選する。しかし翌1944（昭和19）年には、戦争に召集され、画業は中断される。

戦後の1946（昭和21）年、第2回日展に郷里の山形を描いた《秋》が初入選する。以後、東光会と日展が主な発表の場となる。1956（昭和31）年の第12回日展では、自らが働く中華料理店を描いた《調理場》が特選を受賞する。

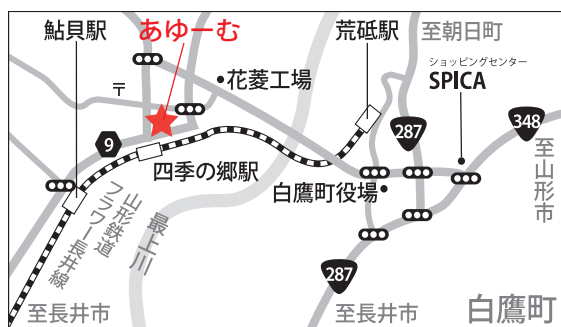
1962（昭和37）年にはフランスに留学し、一転して色彩が豊かで鮮やかになる。1964（昭和39）年の第7回日展では、南仏を描いた《風景》が特選を受賞する。

浅草鳥越から下落合に引っ越した1967（昭和42）年頃から、制作の取材のために日本各地に赴くようになる。滞欧期に培われた豊かな色彩感を活かし、極めて厚塗りのタッチで日本の風景を描く。

1980年代からは前述の日本各地の風景に加え、アトリエから見える街の風景や月を描いた作品が多くなり、新境地を示す。

東光会理事長、日展参与などの重責を担いながら、一方で売り絵を描かない、注文の絵は描かないという厳しい姿勢を貫き、市場の評価を犠牲にしながらも主要作品多数を手元に置いておいた。晩年、郷里の白鷹町に代表作など120点余を寄贈する。

2003（平成15）年、83歳で没する。



### 白鷹町文化交流センターAYU:M

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331番地

■お車でお越しの場合／山形市より国道348号線で約35分

■電車でお越しの場合／赤湯駅より山形鉄道フラワー長井線

〔荒砥行き〕で「四季の郷駅」下車（赤湯駅から約50分）徒歩約4分